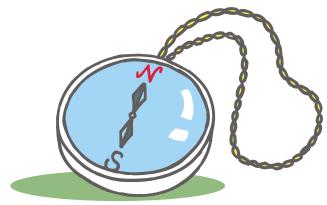


羅針盤



第 10 号

令和2年(2020年)7月6日(月)

◆ 6月23日「沖縄全戦没者追悼式」より

沖縄戦から75年もの月日が経過し、最後の激戦地となった沖縄県糸満市にある摩文仁（まぶに）にある平和記念公園では、太平洋戦争末期の沖縄戦での犠牲者を悼（いた）む「慰靈の日」（6月23日）に「沖縄全戦没者追悼式」が営まれました。今年は、新型コロナウィルス感染症の影響により、参列された方も約160人で実施（例年は約5000人の方が参列されています）されたそうです。式典では、児童生徒を代表して、沖縄県立首里高校3年生の高良朱香音（たからあかね）さんによる平和の詩「あなたがあの時」が朗読されました。（全文を掲載します。）県民の4人に1人が亡くなったとされる地上戦の中、命をつなぎ、戦後の沖縄を復興させた先人たちへの感謝の思いを込めて、自作の詩が読みあげられたそうです。高良さん自身が高校1年生の時に、沖縄戦で住民たちが避難した壕（ごう）を訪れて、その時に壕の中で感じたことを、当時の子どもたちが戦争に巻き込まれていってしまった経過と重ね合わせる形でつづられています。「あなたがあの時 あの人を助けてくれたおかげで 私は今ここにいる」という思い、そして、「真っ暗闇のあの中で あなたが見つめた希望の光 私は消さない 消させない」という強い決意を感じることができます。高良さんは朗読した後、「平和は当たり前のことではない」と深く感じたそうです。私たちも共に平和を継承していく仲間として、この詩からはたくさん学ぶべきことがあると思います。



「あなたがあの時」

沖縄県立首里高校3年 高良朱香音

「懐中電灯を消してください」
一つ、また一つ光が消えていく
真っ暗になったその場所は
まだ昼間だというのに
あまりにも暗い
少し湿った空気を感じながら
私はあの時を想像する

あなたがまだ一人で歩けなかったあの時
あなたの兄は人を殺すことを習った
あなたの姉は学校へ行けなくなった

あなたが走れるようになったあの時
あなたが駆け回るはずだった野原は
真っ赤っか 友だちなんて誰もいない

あなたが青春を奪われたあの時
あなたはもうボロボロ
家族もいない 食べ物もない
ただ真っ暗なこの壕の中で
あなたの見た光は、幻となって消えた。

「はい、ではつけていいですよ」
一つ、また一つ光が増えていく
照らされたその場所は
もう真っ暗ではないというのに
あまりにも暗い
体中にじんわりとかく汗を感じながら
私はあの時を想像する

あなたが声を上げて泣かなかったあの時
あなたの母はあなたを殺さずに済んだ
あなたは生き延びた

あなたが少女に白旗を持たせたあの時
彼女は真っ直ぐに旗を掲げた
少女は助かった

ありがとう
あなたがあの時
あの人のを助けてくれたおかげで
私は今ここにいる

あなたがあの時
前を見続けてくれたおかげで
この島は今ここにある

あなたがあの時
勇気を振り絞って語ってくれたおかげで
私たちは知った
永遠に解かれることのない戦争の呪いを
決して失われてはいけない平和の尊さを

ありがとう

「頭、気をつけてね」
外の光が私を包む
真っ暗闇のあの中で
あなたが見つめた希望の光
私は消さない 消させない
梅雨晴れの午後の光を感じながら
私は平和な世界を創造する

あなたがあの時
私を見つめたまっすぐな視線
未来に向けた穏やかな横顔を
私は忘れない
平和を求める仲間として

